

(株)創建コンサルタント 正員 筒井信之
〃 〃 〇野田和俊

まえがき

近年、大都市及びその周辺の駅前に、自転車が大量にあふれ、市民生活に大きな影響を与えている。この駅前に集中する自転車については、大都市圏における住宅事情、あるいは駐車場の整備状況等の背景があり、又自転車そのものについては、手軽な交通手段であるとともに、省エネ、無公害ということから、その社会的有用性も強調されてきた。しかし現実には、『放置自転車』と呼ばれ、駅前周辺にあふれ歩行者の通行上の障害、災害救急活動への障害、美観上の問題等の事態を生じている。このような中で筆者等は、自転車利用者におけるアンケート調査を実施する機会を得、今回特に「放置自転車」の実態および意識についての調査結果を報告する。

調査の概要

調査方法は、鉄道を利用する自転車利用者を対象とし、帰宅時間帯(4:00PM~8:00PM)において、調査票を直接手渡し後日郵送により回収した。調査対象地域としては、愛知県下でも、放置自転車が多い駅を1ヶ所とし、総数1216枚で、有効回収枚数1216枚(回収率34.7%)であった。なお配布は自転車の置場別(公共自転車置場、民営有料自転車置場、放置場等)に実施し、調査票には、置場別の記号を付し回収後でもわかるようにした。期日は、昭和56年11月10・11・12日である。

*豊橋駅(国鉄・名鉄)、一宮駅(国鉄・名鉄)、東田崎駅(名鉄)
高蔵寺駅(国鉄)、蟹江駅(近鉄)、中村公園駅(名古屋市地下鉄)

分析の結果

ここでは、放置場所(決められた置場以外に駐車された場所)に駐車する人の実態および意識を調査分析するものとする。

< 実態 >

1. 属性(職業別)

放置自転車を職業別に見た場合、自転車利用者全体と、放置自転車を比較すると、「高校生」の比率が放置自転車にみると、増加していることがわかる。

(図1)

図1 放置自転車の職業別実態

サラリーマン	自営業	大業主	高校生	学生その他	全体
362	17	155	326	49	N=1216
253	20	161	389	59	N=391
					05無回答

2. 利用頻度

利用頻度をみると、今回のアンケート調査は、通勤・通学者が主体であるために、「ほぼ毎日利用する」人が82.2%と多いが、放置自転車にみると、「ほぼ毎日利用する」人の割合が減る傾向にあることがわかる。これは、利用頻度の少ない人は、決められた置場で、あるいは関係なく、自転車が大量に駐車されている、止める心理が強いものと思われる。

(図2)

図2 放置自転車の利用頻度

ほぼ毎日利用する	週3~4回	週1~2回	その他	全体
822	78	40	53	N=1216
744	92	64	90	N=391
				10無回答

図3 放置自転車の利用回

500m以内	500m~1.0km	1.0~1.5km	1.5~2.5km	2.5~3.5km	3.5~4.0km	全体
17	157	378	225	109	76	N=1216
33	233	361	171	95	66	N=391
						28無回答

3. 自転車利用圏

自転車の利用圏としては、自転車利用者全体と、
放置自転車を比較してみると、利用者全体では
利用圏が10km以内の人は全体の17.4%であるが
同じ条件の放置自転車を見ると26.6%になり
放置自転車は、近距離圏での利用者の比率が、
増す傾向にあると思われる。

(図3)

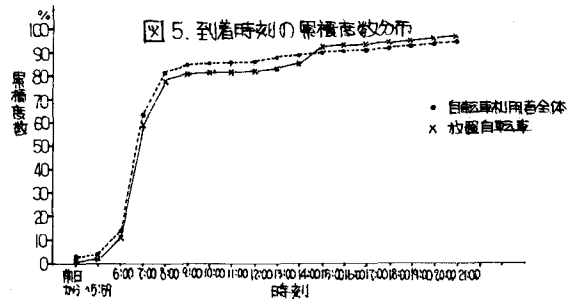
4. 雨の日の利用実態

雨の日の利用実態は、放置自転車に比べると、「自
転車をよめて置く」と回答する人の比率が増す傾向
にある。この結果は、前述した自転車利用圏との
関連があると思われる。

(図4)

図4. 雨の日の利用実態

雨降を以て自転車で行く	歩く	バスに乗る	バイク	自転車に乗る	その他	全体
39.1	17.6	23.7	20	13.2	39.1	N=1216
34.8	21.7	22.0	18	14.9	44	放置自転車 N=391



5. 駐車時刻

自転車を置いた時刻を見ると、対象者は、通
勤・通学が主体であるため、自転車利用者全体で
は、朝の10時までには、85.0%の人が止めている。
これが放置自転車にみると、昼の2時まで止めて
いる。このように放置自転車は、駐車時刻が少し
遅い傾向が見られる。

(図5)

図6. 放置の自覚意識

「放置」を自覚している	「放置」を自覚していない	全体
26.3	73.7	N=391

図7. 「放置」に対する意識

放置は悪い	でもまあいいと思う	困ったと思う	大変お困りに思う	その他	全体
4.9	33.8	31.9	22.7	4.2	N=1216
3.1	42.5	28.6	18.1	4.6	放置自転車 N=391

< 意識 >

1. 「放置」の自覚意識

放置場所に自転車を駐車している利用者の意識として、自分は「放置している」という自覚意識の有無についての調査結果を見ると、放置場所に自転車を駐車している人全体の、26.3%しか自覚していない結果が出ている。これは罪の意識が欠ける回答のつまりを考慮したとして、放置についての自覚意識の低下を示している。自転車の気軽さ、どこへでも自由自在に駐車できる利便性から、放置場所にもかかわらず、自転車が多く駐車してあれば、それは当たり前な駐車場であろうという意識が強いものと思われる。

(図6)

2. 「放置」に対する問題意識

放置自転車が、駅前周辺に大量にあふれている状態についての問題意識としては、放置自転車は「なんとか思わない」「おまじ」「やむを得ないと思う」の意識を持つ人の割合は、45.6%にもなる。特に注目しい。それだけ問題意識の低下を示していると思われる。

(図7)

おわりに

放置自転車の急増の背景としては、数々の要因が考えられている。その中で、自転車利用者のモラル低下も一つの要因として考えられているが、今回のアンケート調査において、放置自転車の実態、意識の両面から調査した結果、実態からは顕著な特徴は見られなかったが、意識面での要因が、放置自転車急増の背景の一因として入さるものと思われる。この調査と分析は、愛知県企業部交通対策室の自転車駐車対策の一環として行われたものである。交通対策室の方々に厚く感謝の意を表します。

< 参考文献 > 愛知県企業部交通対策室「自転車駐車に関するアンケート調査報告書」, 昭和62年2月
・交通シンポジウム - 都市と自転車 - 名古屋大学工学部